

植樹式 2010



時の蘇生・柿の木プロジェクト

目次

2021年更新

2月12日		取手市立寺原小学校 日本・茨城県・取手市	1
2月16日		京都大学大学院・理学研究科附属花山天文台 日本・京都府・京都市	2
2月24日		フリングデールズ英国教会小学校 イギリス・ハダーズフィールド	3
3月22日		マイサム小学校 イギリス・ボルトン	4
3月23日		アルコバレノ駅公園 イタリア・ブレシア県・カツァーゴ市	5
3月24日		オスカー・ディ・プラータ国立総合学院 イタリア・ブレシア県・トレンツァー市	6
3月24日		ドン・アルジェロ・コロombo財団 イタリア・ブレシア県・トラヴァリアート市	7
3月24日		マルデーリ・ディ・ビアンツァ・ロッキア小学校 イタリア・ブレシア県・コッペアート市	8
3月25日		エンリコ・フェルミ高校 イタリア・ブレシア県・サロ市	9
3月25日		ヴァッリオ・テルメ市保育園 イタリア・ブレシア県・ヴァッリオ・テルメ市	10
3月26日		オールドフレディ公園 イタリア・ブレシア県・ビエンノ市	11
3月26日		ボーイスカウト活動拠点 イタリア・ブレシア県・ビゾーニエ市	12

取手市立寺原小学校

🇯🇵 日本

📍 茨城県・取手市

🌱 2010年2月12日

2004年2月20日に取手市立取手第二中学校で2本の柿の木が植樹されましたが、そのうちの1本の柿の木が枯れてしまい、当時のPTAの徳浦さんご夫妻がその瀕死の状態の柿の木を自宅で5年間大切に育て、見事に元気に蘇生してくださいました。そして、この蘇生した柿の木を是非小学校にも植樹したいという思いから、隣の寺原小学校に植樹することになったのです。

2月12日の植樹式では、5年生2クラスの児童とともに植樹を行い、植樹式には徳浦さんご夫妻、当時の取手第二中学校のPTA会長で、植樹申し込者である貫井徹氏も参加して下さり、子どもたちは最初に集会室で柿の木プロジェクトのDVDを見ました。その後、校庭に移動し、



みんなで元気になったものの、まだ細い柿の木を植樹し、一人一人土をかけていきました。そして、最後に記念撮影しました。

この柿の木が元気に寺原小学校に根付いていくように、今後も徳浦さんご夫妻をはじめ、みんなで見守って行って下さるとのことです。



京都大学大学院・理学研究科 附属花山天文台

🇯🇵 日本

📍 京都府・京都市

🌱 2010年2月16日



フリングデールズ英国教会小学校

🇬🇧 イギリス

📍 ハダーズフィールド

🌱 2010年2月24日



2006年3月26日のイギリス・ハダーズフィールド、エジャートン墓地の植樹申し込者であるジョナサン・アダムソンさんが今回の植樹申し込者です。ジョナサンさんは、2006年の植樹以来、柿の木プロジェクトを自分の住んでいる地域で推進していきたいと思い、自ら近隣の学校や教会など10数か所へ手紙を送り、柿の木プロジェクトを紹介してくれました。その中の2か所から、是非植樹したいという希望が寄せられ、今回のフリングデールズ英国教会小学校での植樹が実現しました。フリングデールズ英国教会小学校はイングランド北部の小学校です。

植樹イベントは2月24日と27日の2日間にわたって行われました。2月24日の植樹式は小学校で開催され、日本の弁慶と義経の昔話をもとに、柿の木によって最後はこの二人が仲直りとするという創作昔話が子どもたちに披露され、町の合唱団が歌を歌いながら、柿の木へ土をかけていきました。2月27日は、ロビンフッド港町役場において、詩のワークショップ、午後はHenwenとSalaam UKバンドのコンサートが行われました。柿の木は子どもたちの詩が描かれた美しい紙によって飾られました。

マイサム小学校

🇬🇧 イギリス

📍 ボルトン

🌱 2010年3月22日

2006年9月11日に行われたプエルト・リコ現代美術館の植樹式に参加したアーティストがイギリスのボルトンに住む妹に、この柿の木の話を手紙に書き、この方がボルトン・インターフェイス・カウンシルにボルトンでの植樹を提案したことで、マイサム小学校での植樹が実現しました。

ボルトン・インターフェイス・カウンシルは、ボルトンで、平和や異なる宗教の人々の互いの理解や親交を進めている団体です。ボルトン・インターフェイス・カウンシルは、コミュニティの中心に位置し、長崎の原爆について子どもたちに学ばせたことがあるマイサム小学校を植樹

地として選定し、ともに植樹の準備をしました。

植樹式当日は、午前中にボルトンタウンホールにて市長の挨拶、柿の木ふろしきの贈呈、子どもたちによる歌や詩の朗読などのイベントが行われました。そして、午後から、みんなでマイサム小学校に移動し、小学校の中庭に柿の木が植樹されました。ボルトン市が重要と考えている「平和」や「相互理解」といった目標をみんなで考えていこうという強い意識が感じられるとても素晴らしい植樹式となりました。また植樹は地元新聞にも大きくとりあげられていました。

School plants a tree of peace from Japan

Cutting is taken from plant which survived A-bomb

CHILDREN in Bolton have become the guardians of an important symbol of world peace.

For pupils at Mytham Road Primary School in Little Lever have been presented with a Kaki tree.

The tree was one of just a few natural things to survive when the Japanese city of Nagasaki was destroyed by an atomic bomb in the final days of the Second World War.

A tree doctor rescued a green shoot after the devastation and produced saplings from it. Every year since then, 10 new saplings have been grown from

by Rhianne Pope

presented artwork and poetry inspired by the tree at the presentation.

Headteacher Angela Eastwood said that the presentation was a great accolade for Bolton.

"We are honoured to be involved in this project," she said.

"Today has been a very special day for Mytham."

A time capsule containing passages and photos of the children will also be buried next week.

It will be opened in 10 years time, when today's pupils will be invited to return and talk to a



アルコバレーノ駅公園



イタリア



ブレシア県・カッツァーゴ市



2010年3月23日

2010年3月にイタリアのブレシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

植樹はカッツァーゴ市の中心にある、アルコバレーノ駅公園を予定していますが、5月に本植える前に、参加協力してくれたマリア・ロザリオ・カッサリーノ中学校で、大きな鉢に仮植えをする植樹式を開催しました。

3月23日午前中学校で行われた植樹式には、代表の子ども約120人が参加しました。植樹に先駆けて、原爆や被爆柿を学習した子どもたちが作った広島・長崎の惨事を紹介する映像が上映され、リコーダーとギターを使った演奏、合唱が披露され、被爆柿をテーマにした詩の発表は参加者の感動をよびました。また、壁や窓いっぱいに張り出してある「木の实」や「葉っぱ」など自由にコラージュして作られた柿の木の絵は創造性溢れ、マリア・ロザリオ・カッサリーノ中学校の子どもたちが、被爆柿2世のことをとても

良く学習し、それを発展させていることが感じられました。子どもたちは、柿の木を地植え予定のアルコバレーノ駅公園に隣接する老人施設のお年寄り達から、戦争体験の話を聴くなどして、平和学習発展させていく計画をしています。とても学習意欲溢れるイベントでした。



オスカー・ディ・フラータ国立総合学院

 イタリア

 ブレシア県・トレンツァー市

 2010年3月24日

2010年3月にイタリアのブレシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

3月24日午前、晴天のなか、オスカー・ディ・フラータ国立総合学院の校庭で行われた植樹式はとても盛大なものでした。式典は、壇上に市長、校長、柿の木実行委員ら来賓が座り、参加者は全校生徒の演技を鑑賞しました。イベントは平和のメッセージをつけた風船を空へ飛ばすことから始まり、ブラスバンドによる演奏、空手の実演、踊り、詩の朗読など次々に行われ、中でも、ルネサンス期の衣装を纏った学生のダンスは文化を感じさせ印象的なものでした。また、移民の多い土地柄、東ヨーロッパのフォークダンスなども披露されました。学校のあちらこちらには、平和へのメッセージや絵、そしてマンガも展示してあり、学校上げて力の入った植樹式でした。しばらく、柿の木は鉢植えのまま育てられますが、今後、学校の正面玄関に平和をデザインした花壇を作る予定となっており、そこに柿の木は地植えされることになっています。



今回の植樹式には、日本から実行委員の親子連れが参加、4歳の男の子が柿の木を持って式典の会場に入場する様はとてもほほえましく、参加者たちも喜んでくれました。



ドン・アルジェロ・コロンボ財団

 イタリア

 ブレシア県・トラヴァリアート市

 2010年3月24日

2010年3月にイタリアのブレシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

3月24日午前、トラヴァリアート市にある老人介護施設、ドン・アンジェロ・コロンボ財団からの植樹の申し込があり、施設内の庭で植樹式が行われました。植樹式には、近隣の幼稚園、小・中学校から約250人の子どもたちも参加してくれ、お年寄りと子どもたちはとても和気あいあいとした雰囲気でした。植樹式では、幼稚園生がバンダナを振っての合唱、中学生がボブ・デイルの詩の朗読とバケツのドラムと木琴による演奏、小学生たちはデイコーダー演奏を行い、その後、老人による戦争体験の話があり、みんな熱心に聞いていました。最後にみんなで柿の木を植樹しました。

特に素晴らしかったのは、施設内に展示してあっ



た広島・長崎の資料と、子どもたちが事前に勉強して作った絵やポスター、詩などの展示物です。その数と質の高さにはほんとうにびっくりしました。施設内には認知症の老人も多いましたが、日常生活で普段はあまりいない大勢の子どもたちにみんなとても嬉しそうだったことも大きく印象に残りました。また老人たちも柿の木に花を捧げるなど、さりげなく参加してくれ、心温まる植樹式となりました。



マルティナーリ・ディ・ ピアンツァ・ロッキア小学校

🇮🇹 イタリア

📍 プレシア県・コッレベアート市

🌱 2010年3月24日

2010年3月にイタリアのブレシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

3月24日午後、コッレベアート市の山のふもとにあるマルティナーリ・ディ・ピアンツァ・ロッキア小学校で植樹式が行われました。柿の木は自然豊かな校庭のほぼ真ん中にすでに植えられており、美しい銀色のプレートが付いていた。また、校庭の他の木々には折り紙で飾り付けがされていて、手作りのおもてなしが用意されていまし

た。校庭には、大きな柿の木の「生と死」を描いた絵が飾ってあり、校舎から次々と出てきた子どもたちはそれを囲むように並んでいきました。その数約200人あまり。植樹式にはPTAも参加しており、子どもたちの親たちはそれを取り囲むかのように暖かな眼差しで見つめていました。高学年の子どもたちは、詩を披露し、低学年の子どもたちは歌を歌ってくれました。澄んだ歌声はいつまでも山間の町にこだましている穏やかな植樹式でした。



エンリコ・フェルミ高校

 イタリア

 ブレーシア県・サロ市

 2010年3月25日

2010年3月にイタリアのブレーシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

ガルダ湖を見下ろす、美しい自然に囲まれたサロ市立エンリコ・フェルミ高校にて植樹。

同高校の英語教師マッシモ先生が「平和の行進」に参加した際、ブレーシア州の植樹をサポートするフランチャコルタ・モンテ・オルファノ平和会議協会のフランチェスコさんと出会ったことで、プロジェクトを知り、植樹の実現となりました。

実行委員が到着すると、生徒たちが温かく迎え入れてくれました。校長先生、宮島達男、サロ市長からの挨拶をいただき、ガルダ湖を見ながら中庭で厳かな植樹式が行われました。

柿の木に黙祷をささげ、生徒代表のスピーチでは、長崎を原爆最後の土地とし、平和意識を世界へ広げる決意を聞くことができました。700名ほどの生徒が通う高校の中庭は、どこからでも目がつく場所にあり、柿の木は毎日生徒たちに平和を語りかけることでしょう。



ヴァッリオ・テルメ市保育園

 イタリア

 ブレーシア県・ヴァッリオ・テルメ市

 2010年3月25日



2010年3月にイタリアのブレーシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

25日午後、山間の小さな町ヴァッリオテルメの子どもたちが盛大に歓迎してくれました。柿の木色の風船や日本語でのウェルカムボード、手作りの柿の実で飾られた会場は和やかな町の雰囲気を与えるものでした。保育園児の合唱、小学生による英語歌詞「イマジン」の合唱などで会場は一体となり、最後は賑やかに柿の木2世にみんなで土をかけました。市長をはじめ大人



達は子どもたちを終始温かく見守っていました。

植樹式が終わると親睦会が開かれ、会場には日本における原爆被害の状況を伝える資料などが展示され、平和を考える場になっていました。また保育園児達は日本から訪れた子どもの手を取り、保育園の中を案内してくれました。言葉が通じなくとも笑顔で仲良しになれる子どものコミュニケーション力に、平和の一步を感じました。



オールドフレディ公園

🇮🇹 イタリア

📍 ブレーシア県・ビエンノ市

🌱 2010年3月26日

2010年3月にイタリアのブレーシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

ブレーシア市から車で二時間、イゼオ湖を過ぎ、山の中の中世都市ビエンノ。この町は近くにイタリアで初登録となった世界遺産の国立ナクアーネ岩壁彫刻公園があり、鉄細工と美しい水の町としても有名で、近年では移民の影響で少しずつ住民が増えている町でもあります。

植樹場所となった児童公園は町の中心に位置し、子どもの遊具が充実し、誰でも楽しめる憩いの場。植樹場所としては最適な環境です。

誰もいない公園で植樹式を待っていると、子どもたちがぞくぞくと入場。あっという間に子どもたちで埋め尽くされ、賑やかになりました。我々の訪問前から、日本文化を理解し、ひらがなでウェルカムボードを制作したり、平和と戦争の絵を描いたり、プロジェクトを理解するためにさまざまな活動を行っていました。植樹式では小学生が「平和の木」を合唱。同級生が見守る中、中学生のスピーチも堂々と行われました。

印象深かったのは、市長をはじめとする大人達のプロジェクトの理解です。学校統括ヴィットリオ先生は大人と一緒に平和を作る人になろうと子どもたちに訴えていました。



公園には後にイタリアの平和の象徴であるオリーブの木も植樹されることになっており、昔から植えられている柿の木と柿の木2世の三本は仲良く元気に育つことでしょう。

なお、子どもたちから実行委員に託された絵は無事に日本に運ばれました。

ボーイスカウト活動拠点

🇮🇹 イタリア

📍 ブレシア県・ピゾーニェ市

🌱 2010年3月26日

2010年3月にイタリアのブレシア州の8か所の市町村で行われた一連の植樹のうちの一つ。

イセオ湖のほとりにあるピゾーニェ・スカウト基地にてブレシア州最後の植樹を行いました。この場所はボーイスカウトの活動拠点で、春から秋にかけてヨーロッパ各地から年間2000人ほどのボーイスカウトのメンバーがキャンプをします。湖に面したこの場所で、子どもたちはカヤックやヨットなどを体験し、成長する場となっているようです。

会場には平和と戦争をテーマとした絵画が展示され、植樹前からの熱心な活動が伺えました。植樹はキャンプの入り口右手に位置し、すぐ目

にとまるところで、柿の木の隣には地元の彫刻家が「平和」をテーマに制作した彫刻が設置されました。

この日は雨模様でしたが、国旗の掲揚から始まり、みんなで合唱したり、子どもたちのリコーダー演奏を聴いたり、自然の偉大さを感じながら和やかに植樹式は過ぎていきました。また、近隣市長も参加し、ミラノ総領事も訪問。地域一丸となって平和意識を高めようとの思いが結実した式典でした。

今後もキャンプでは、被爆柿の木2世を通して平和と未来を考える場となってほしいです。

